

加盟団体

連合愛媛 四国労金
全 労 濟 愛媛労住協
県生協連 勤労会館

第377号

- 2009・1・15 -

えひめ ワークライフ

発行所

社団法人
愛媛県労働者福祉協議会
松山市宮田町125
☎790-0066 愛媛労福協会館
電話 089(946)2296
ホームページアドレス
<http://ehime.rofuku.net/>
メールアドレス
e-rofuku@leo.e-catv.ne.jp



「今年が良い年になりますように。」

年頭挨拶

愛媛県労働者福祉協議会

理事長 木原忠幸

新年あけましておめでとうございます。
皆さまには、ご家族おそろいで、新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて本年は、経済・政治の混迷と変革への希望が交錯する中での年明けとなりました。世界的な金融危機、格差と貧困の広がりの中で、マネーレース化した資本主義は破綻し、市場万能の新自由主義は終焉を迎えつつあります。

昨年の労福協研究集会で中央労福協の 笹森会長は「同質の協力は和（足し算）にしかならないが、異質の協力は積（掛け算）となる」と述べ、我々勤労者の持つ力を、地域で活動する消費者・市民運動と連携することで、より発展的な労働運動・労働者福祉運動を目指そうと呼びかけられました。

この間、私たちは賃金業法や割賦販売法の改正、反貧困などの取り組みの中で、多くのことを学び、成果を上げ、我々勤労者の持つ測り知れないパワーを再確認しています。

エンジの波は、アメリカだけでなく日本の足下にも確実に押し寄せています。今こそ、労働運動と労働者福祉運動の力で地域社会の連帯の絆を再生させ、「協同」が輝きを増す社会を創り出していくましょ。

労福協は、勤労者の「拠り所」となる組織・運動づくりを目指します。皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

労福協「これからの労働運動・福祉運動のありべき姿について」 第25回愛媛労働者福祉研究集会開催報告(下)

前号(2008年12月第376号)に引き続き、昨年の11月11日に開催された第25回愛媛労働者福祉研究集会での基調講演報告について掲載します。

講演 中央労福協会長 笹森清氏

「労働運動・労働者福祉運動の理念・歴史に学ぶ」

前号まで・労働運動の歴史を振り返りながら、日本社会の変容と現在の状況について述べ、「労働者を取り巻く環境が激変した現在の社会の中で、労働運動・労働者福祉運動が旧来のまま行われば絶滅の道をたどる」と警笛をならしました。

III. 「共感の得られる運動」を!

雇用者5174万人のうち正規雇用3441万人、非正規雇用1732万人と全労働者の3分の1が非正規労働者になっている実態を示した上で、ピクタの組織率が55.7%あった時代は、ほとんどの雇用者が正規社員で「働く人との家族のため」に運動をすれば、

その結果それらが決める労働条件が中小・零細企業含めて波及効果を及ぼし、労働組合が役割を果たしているといえ

た。しかし、これだけ非正規労働者が増えた現在において労働運動の社会的影響力は薄れている、労働組合は全労働者の少数派だという自覚を持って運動をしないと道を間違えると指摘。つまりは、今の社会変化、雇用環境の変化の中、全労働者のうちめぐまれて

いる立場にある自分たちの運動は「自分たちのため」だけではなく「社会のため」にどう影響を及ぼせるのかという事を考えないと訴えました。

IV. 職域から地域へ、そして市民運動との連携を

その中でまず、これからの運動の基

本として置いてもらいたいキーワードとして「共感の得られる運動」が提唱されました。

これについては2004年にストライキを打って話題となつたプロ野球選手会の実例をあげ、あのときのストは手会の実例をあげ、あのときのストは選手が自分たちの条件のためにやつたのではなく、今後のプロ野球界が発展



するのかしないのか、自分たちの年俸を下げてもいいから考え方直してくれ

といつてストを打った。私たちの打ったストは時に批判されることもあったが、あの時のストを誰一人「けしからん」と言つた人はいないでしょう、なぜか。彼らの行為は心を打つものだからです。運動を社会に広げ影響を与えるものにするには、この「共感を得られる運動」を基本に置かないといけないと訴えました。

具体的には、現在の地域社会の崩壊について言及した上で、その再生がこれから日本の社会において必要不可欠であるとし、「ライフサポートセンター事業」の取り組みを紹介。労金、労済の創設の原点が生活を主体とした働く現場の中の必要性から生まれた存在であることから、同事業への積極的な参加を要請した上で、さらに地域で専門能力をもつて活躍するNPOや市民団体、弁護士などの専門家などとネットワークをつくることで、地域を拠点とした課題や取り組み(運動)の共育化をはかり、地域の人たちから頼られる存在になると訴え、講演をしめくくりました。

そして「社会を変え、役割を發揮する運動」の形については、労福協が中心になって労働団体、事業団体に協力をしながら、「同質の協力は和にしかならないが、異質の協力は積になる」と述べられ、これまでの「職域」という運動

の限界を超えて、労働運動のノウハウを「地域」へ開放することを提示し、地域社会との共生・共生を考えていってもらいたいと述べました。

具体的には、現在の地域社会の崩壊について言及した上で、その再生がこれから日本の社会において必要不可欠であるとし、「ライフサポートセンター事業」の取り組みを紹介。労金、労済の創設の原点が生活を主体とした働く現場の中の必要性から生まれた存在であることから、同事業への積極的な参

講演を聴いて

(参加者アンケートより)

- 労働組合の歴史を普段知ることがなかったので、大変勉強になりました。
- また、時代によって、労働組合に求められている役割も違ってきてるので、支持を受ける組合に生まれ変わらなければと思いました。 (男性・20代)

- 過去、築かれてきた労働・福祉運動の背景について知ることができた。この背景があるて、これから活動・運動をどの方向にどういった方針でという具体的な目的を知れたことがとりわけ有意義だった。しかしながら、全ての人々がこれを理解していくことは難しく、必然的にこのような活動に取り込まれるシステム作りが重要なと思う。 (男性・20歳)

- 意外と、今の組合活動の事は知っているが、歴史やルーツについて学ぶ機会はこれまであまりなかった。基本が分かっていないのにかたちだけやってきた気がしました。政治への関心も含めて、本日聞いて感じたことを参考に、これから組合活動に取り組みたいと思います。 (男性・30代)

(女性・30代)

・労働運動の歴史、現状から現在の社会環境において改めて労働組合の必要性と役割を認識することができました。高度経済成長期のような、年功賃金、終身雇用に代表された安心・安定は現在の企業経営、社会保障制度も含め失われていること。それを変えることができる組合による労働運動であり、その労働運動も過去の運動では時代の変革に対応できない。今の生産年齢の中心である組合員の変化が重要であると感じます。 (男性・30代)

・予想していた内容とは違って、とても興味深い内容で勉強になった。雇用縮小、経営悪化等、自分の周りでも目に見えて現象が起こっている。人口減少のグラフ(推移予想)を見て、豊かな生活どころか、今後生活が厳しくなる危機を感じた。自分の生活が大事!!目の前の生活や行動を中心と考えるけれど、それでも全体のことを考えて、将来どうしたいのか、真剣に考えないといけないと思った。「労福協」に対するイメージが変わった。正確には、ちゃんと知らないまま知る機会がないままこれまできていた。労福協活動に積極的に参加したいと思う。 (男性・30歳)

・労働運動の歴史、現状から現在の社会環境において改めて労働組合の必要性と役割を認識することができました。高度経済成長期のような、年功賃金、終身雇用に代表された安心・安定は現在の企業経営、社会保障制度も含め失われていること。それを変えることができる組合による労働運動であり、その労働運動も過去の運動では時代の変革に対応できない。今の生産年齢の中心である組合員の変化が重要であると感じます。 (男性・30代)

・予想していた内容とは違って、とても興味深い内容で勉強になった。雇用縮小、経営悪化等、自分の周りでも目に見えて現象が起こっている。人口減少のグラフ(推移予想)を見て、豊かな生活どころか、今後生活が厳しくなる危機を感じた。自分の生活が大事!!目の前の生活や行動を中心と考えるけれど、それでも全体のことを考えて、将来どうしたいのか、真剣に考えないといけないと思った。「労福協」に対するイメージが変わった。正確には、ちゃんと知らないまま知る機会がないままこれまできていた。労福協活動に積極的に参加したいと思う。 (男性・30歳)

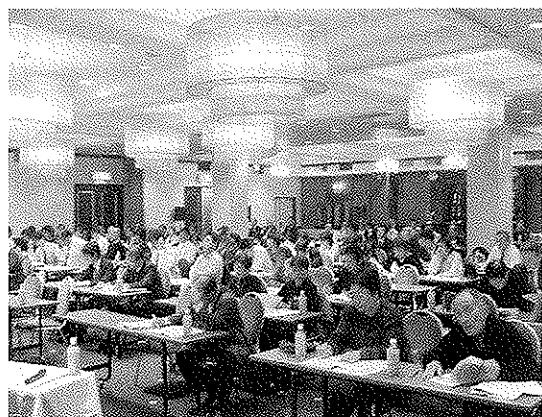
・現在の労働運動における、課題・問題提起がされ、労働運動も企業内だけではなく「職域から地域へ」をもつとうに労働運動の再生・活性化に努めなければならないと思った。(男性・50歳)

・終戦後から今までの経済社会の変化、労働運動の推移と我々の体験したこと振り返って懐かしく思った。現在の問題点(パート等非正規労働者の問題)について非常に心配をしているところです。 (男性・70歳以上)

かた。非正規社員の対応を今後どうするべきかが、自分自身の問題と思っている。進め方は難しいが…。 (男性・40代)



終始座らずの笹森会長の熱弁に参加者も圧倒されました。



就職安定資金融資

四国労働金庫は、厚生労働省からの要請により、緊急雇用対策の一環として、離職に伴う住居喪失者（雇い止め・契約満了による社宅・寮等からの退去を余儀なくされた派遣労働者等）に対する賃貸住居契約等に係る生活費用の緊急融資として、「就職安定資金融資制度」の取扱いを、2008年12月22日より開始しました。

労働金庫は本融資を《生活応援運動》の拡充策のひとつとして、福祉金融機関としての役割を發揮し全国の労金が提携して取組むことを確認しました。

*詳しくは公共職業安定所（ハローワーク）もしくは労金窓口にお問い合わせ下さい。

離職者緊急生活資金

愛媛県は四国労働金庫と共同で離職者向けの生活資金融資制度を設けています。離職によって、本人又は離職者が扶養する者の生活に必要となる資金を融資します。

【金 利】	年0.3%
【限 度 額】	100万円
【返済期間】	5年以内 (6ヶ月以内の据置可能)
【保 証】	保証機関の保証及び 連帯保証人1名
【保 証 料】	年1.2%

*詳しくは愛媛県内の四国労金各支店にお問い合わせ下さい。



ずっと永く、四国ろくじん。»

労金協会より労金運動と労金事業の更なる発展を目指して、労金の全国合併（『日本労金』設立）の提案が示されました。四国労金では2001年4月の統合時に、日本労金創設に向けたステップという位置付けで取組んでまいりました。この流れを引き継ぎ、四国労金としては今回の提案を支持する立場で取組みを行います。

昨年十一月十二日開催の愛媛地区推進委員会にて討議後、順次各営業店の会員代表者会議を開催し（十一月十三日～十一月五日）会員討議を行ってまいりました。会員討議で出された「意見・」の要望は統括本部で取り纏め会員の皆様へ還元していきますので、第二次会員討議におきましても積極的な意見をお寄せいただきますようお願い致します。

今後は各店の推進委員会・2月開催予定の第二次会員討議を経て今年六月の総会で合併に向けた態度を明らかにする予定です。

（単位：千円）

店 番	営業店名	預入件数	預 入 金 額
徳島地区	小 計	769	657,942
香川地区	小 計	1,297	755,972
783	愛媛支店	248	140,620
784	松山支店	207	83,481
785	新居浜支店	216	121,974
786	三島支店	97	57,811
787	今治支店	110	68,694
788	八幡浜支店	129	68,793
789	宇和島支店	127	63,010
793	西条支店	83	52,172
愛媛地区	小 計	1,217	656,555
高知地区	小 計	622	559,117
合	計	3,905	2,629,594

十一月に季節預金キャンペーントとしてスタートした『ろくじん年末うれしい発見キャンペーン』が十一月末をもって終了いたしました。

結果は四国全体として26億29百万円となり、愛媛地区におきましても預入件数一二一七件、預入金額6億56百万円を結集する事ができました。当選発表はホームページ・店頭上にて行つと共に当選者にご連絡いたしました。

会員の皆様のご協力、大変ありがとうございました。

労金の全国合併の提案

第一次会員討議終了

らうきん年末うれしい発見キャンペーン
愛媛地区 6億56百万円結集

就職安定資金融資

四国労働金庫は、厚生労働省からの要請により、緊急雇用対策の一環として、離職に伴う住居喪失者（雇い止め・契約満了による社宅・寮等からの退去を余儀なくされた派遣労働者等）に対する賃貸住居契約等に係る生活費用の緊急融資として、「就職安定資金融資制度」の取扱いを、2008年12月22日より開始しました。

労働金庫は本融資を《生活応援運動》の拡充策のひとつとして、福祉金融機関としての役割を發揮し全国の労金が提携して取組むことを確認しました。

*詳しくは公共職業安定所（ハローワーク）もしくは労金窓口にお問い合わせ下さい。

離職者緊急生活資金

愛媛県は四国労働金庫と共同で離職者向けの生活資金融資制度を設けています。離職によって、本人又は離職者が扶養する者の生活に必要となる資金を融資します。

【金 利】	年0.3%
【限 度 額】	100万円
【返済期間】	5年以内 (6ヶ月以内の据置可能)
【保 証】	保証機関の保証及び 連帯保証人1名
【保 証 料】	年1.2%

*詳しくは愛媛県内の四国労金各支店にお問い合わせ下さい。



ずっと永く、四国ろうきん。»

労金協会より労金運動と労金事業の更なる発展を目指して、労金の全国合併（『日本労金』設立）の提案が示されました。四国労金では2001年4月の統合時に、日本労金創設に向けたステップという位置付けで取組んでまいりました。こうした流れを引き継ぎ、四国労金としては今回の提案を支持する立場で取組みを行います。

昨年十一月十二日開催の愛媛地区推進委員会にて討議後、順次各営業店の会員代表者会議を開催し（十一月十三日～十一月五日）会員討議を行ってまいりました。会員討議で出された「意見・」の要望は統括本部で取り纏め会員の皆様へ還元していくので、第二次会員討議におきましても積極的な意見をお寄せいただきますようお願い致します。

今後は各店の推進委員会・2月開催予定の第二次会員討議を経て今年六月の総会で合併に向けた態度を明らかにする予定です。

(単位：千円)

店 番	営業店名	預入件数	預 入 金 額
徳島地区	小 計	769	657,942
香川地区	小 計	1,297	755,972
783	愛媛支店	248	140,620
784	松山支店	207	83,481
785	新居浜支店	216	121,974
786	三島支店	97	57,811
787	今治支店	110	68,694
788	八幡浜支店	129	68,793
789	宇和島支店	127	63,010
793	西条支店	83	52,172
愛媛地区	小 計	1,217	656,555
高知地区	小 計	622	559,117
	合 計	3,905	2,629,594

十一月に季節預金キャンペーンとしてスタートした『うれしい年末うれしい発見キャンペーン』が十一月末をもって終了いたしました。

結果は四国金体として26億29百万円となり、愛媛地区におきましても預入件数一二一七件、預入金額6億56百万円を結集する事ができました。当選発表はホームページ・店頭上にて行うと共に当選者にご連絡いたします。

会員の皆様のご協力、大変ありがとうございました。

労金の全国合併の提案

うれしい発見!! キャンペーン
愛媛地区 6億56百万円結集

近代史文庫例会ごあんない 労研饅頭のはなし

●日時 2009年2月14日(土)午後1時半~4時

●場所 松山市民会館第3会議室

●参加費 500円(資料代、紅白の労研饅頭)

●内容

「松山銘物・労研饅頭(まんとう)から見えてくるもの」

浜田紀男(大阪山宣会事務局長)

「酵母菌のはなし」 棚井秀雄(鈴峰女子短期大学教授)

*詩の朗読 杉山平一『夜学生』より 松山城南高校生徒

●主催 近代史文庫(松山市紅葉町2-5 Tel943-4856)

問合先 090-4505-9259 090-1579-6532

労研饅頭の由来

昭和の初め、倉敷の労働科学研究所で中国の饅頭(まんとう)

を日本人向けに改良して作ったのが始まりです。

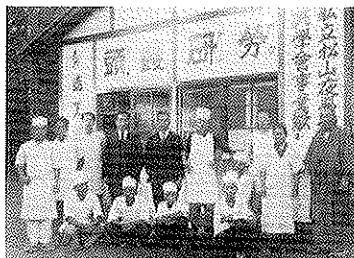
松山では、「夜学生に学資を」と松山夜学校奨学会で製造を始め各校の売店などで販売していました。

その当時から受け継がれてきた酵母菌を使って、甘みをおさえた素朴な味が自慢の手作りのまんとうです。

「夜学生に学資を」と、松山でつくりはじめた饅頭。本県では昭和六年十月に、松山夜学校奨学会ではじめて製造販売した。当時の倉敷労働科学研究所長 喰峻義等(てるおかぎとう)が、日本の食糧問題解決のため、中国下層労働者の主食である饅頭(まんとう)を日本人向きに改良「労研饅頭」と命名し、既に京阪神において売り出されていたものである。

同奨学会では、退役軍人で熱心なクリスチャンである数学者 竹内成一(たけうちしげひと)を責任者に選び、村瀬宝一(むらせ ほういち)の六時屋タルト社長(たちや たると)を倉敷に派遣して製法を学ばせ、その酵母菌を譲り受け持ち帰り、さらに中国人の林樹宝(りんじゅう)を招いて製造技術を学んだ。のち、この事業は竹内の個人経営に移るが、今も素朴な伝統の味を伝えている。

—愛媛県百科大辞典より—



株式会社労研饅頭たけうち ホームページより

英国の邸宅をイメージした「ケンジントン」、
南欧風レンガ作りの「エグレッタ」、
そして新バケット「ブレーカス」は、
爽やかで品気あるイメージ。
ピュアフルはおふたりのお望みの
パーティを演出いたします。

ブライダルフェア

Pureful
Matsuyama
Wedding
2008

気品あふれる新バケット、
お洒落なドレスティック、スタイリッシュな新ロビーも華やかに堂々オープン!



The
Kensington



ブライダルフェアのご案内

2月15日(日)

10:00~19:00

新チャペルとパーティ会場をフルセッティングでご覧いただけます。最新ウエディングドレス試着、テーブルコーディネート、ケーキバイキング、デザートビュッフェの試食などゆっくりお楽しみください。

※毎月開催しています。お気軽にお問い合わせください。



ウェディングホール
ピュアフル松山
勤労会館
松山市宮田町132

お問合せ・ご予約は

TEL 089-945-6012

